

システムモデルを用いた限局性前立腺癌治療が及ぼす患者の質と医療経済研究

並木俊一¹⁾、荒井陽一¹⁾、石戸谷滋人¹⁾、栃木達夫²⁾、濃沼信夫³⁾

- 1) 東北大学医学系研究科泌尿器科学分野
- 2) 宮城県立がんセンター泌尿器科
- 3) 東北大学医学系研究科医療管理学分野

【目的】1) 前立腺癌の3つの手術療法（恥骨後式、腹腔鏡下、会陰式）についての患者 QOL の測定。2) 手術及び放射線療法に対して投入される医療費について解析し、それぞれに対する費用対効果を明らかにする。

【方法】1) 患者 QOL の測定には SF-36 及び UCLA PCI を用いた。2) EuroQOL-5D を用いて QOL 効用値(QALY)を算定。医療費は診療報酬明細書を収集分析。

【成果】1) いずれの術式においても術後の QOL、urinary function、sexual function に有意差を認めなかった。2) 治療後 12 ヶ月までの手術療法及び放射線療法の費用対効果は、¥149,075/QALY 及び ¥150,211/QALY であり同等のアウトカム評価であると考えられた。